

## 発刊にあたり(2)

自動車技術ハンドブックが前回改訂された2005年は、電動車両が本格的に市場導入された時期であり、環境対応技術として紙面を割いた構成となっていました。その後10年を経て、ハイブリッド車は広く普及し、燃料電池車も市販が始まりました。その一方で、内燃機関の環境技術も着実な進歩を遂げ、現在でも自動車の動力源の中心を占めています。安全技術については、当時は先進技術であった予防安全技術やプリクラッシュセーフティ技術が、この10年で確実な普及を遂げました。また、ITSの技術は、高度運転支援システムとして予防安全分野での開発が進むとともに、その情報技術は、自動車に新たな利便性を付加する技術として発展を始めています。

今回、これらの状況を反映した大幅な改訂を行いました。電動車両の詳細技術については、「EV・ハイブリッド編」に譲り、本書の記述は環境側面に絞りました。また、前の版ではほとんど触れられなかった、内燃機関の環境技術を新たに詳説しています。安全技術は予防安全、プリクラッシュセーフティ、衝突安全と、対策の段階ごとに解説し、今後の発展が期待される自動運転技術についても追加しました。情報技術は独立した章としてまとめました。

最新的话题に偏らず、重要な環境・安全・情報技術を広く紹介するため、内燃機関、電動車両など個々の技術の詳細については別冊に譲り、ここでは環境・安全・情報の視点に絞った解説としました。別冊を合わせて読むことで、理解がより深まると考えております。

読者の皆様が、本書から得た情報を基礎として、次の10年に向けての技術開発に貢献されることを願ってこの新版を発刊します。

最後に、本書を執筆いただいた各分野の専門家の皆様、本書の構成から完成までご尽力いただいた分冊委員会の委員の皆様と編集事務局に、深く感謝の意を表します。

2015年12月

環境・安全・情報編 編集委員会

委員長 藤川 達夫